

DSPカセットプレーヤー

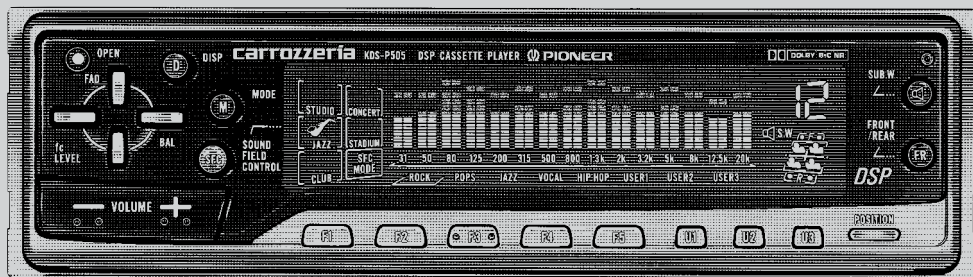
目次 4 ページ

取扱説明書

お買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。なお、この取扱説明書は、保証書と一緒に必ず保管してください。
接続と取り付けは、別冊の取付説明書をご覧ください。

carrozeria
by **PIONEER**

KDS-P505



安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意 (警告を含む) しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止 (やってはいけないこと) の内容です。



必ず行う

このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

警告

[異常時の処置]

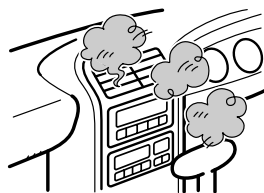
故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

はじめに

本機と組み合わせる メインユニットについて	6
「DEH-P505/DEH-P700/ MEH-P707/MEH-P800」 との組み合わせ	7
「DEH-P500」 との組み合わせ	8
「DEH-P660/DEH-P550/ DEH-P99/DEX-P9/DEX-P7」 との組み合わせ	10
本機の各部のなまえ	12
メインコントローラーについて	13

準備

メインユニットの音量を設定する	14
テープをセットする	16

テープを聞く

テープのふだんの操作	18
ソースを切り換える	
再生する面を選ぶ	
音量を調節する	
早送り/巻き戻しや頭出しをする	20
モードの切り換えかた	21
同じ曲を繰り返し聞く	22
長い無音部分を 自動的に早送りする	23
ドルビー NR	24
よく使う機能を学習させる	26

音場を再現する

音場の中心で聞く	28
前後左右の音量バランスを 調節する	30
音場を再現する	32
音場空間内での自分の位置を 調節する	34

イコライザーを調節する

イコライザーカーブの呼び出し	36
イコライザーをかける スピーカーを選択する	
イコライザーカーブを呼び出す 記憶されている イコライザーカーブについて	38
イコライザーカーブを 全体的に補正する	40
イコライザーカーブを 細かく調節する	42
イコライザーカーブを記憶させる	44
イコライザーカーブの 効果を確認する	45

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

サブウーファーを調節する

サブウーファーの調節	46
サブウーファー出力を ONにする	
サブウーファーを調節する	

その他の機能と付録

表示を切り換える	48
瞬時に音量を小さくする	50
夜間のディスプレイの明るさを 切り換える	51
エクスターナル接続時の テープの機能について	52
テープの正しい使いかた	53
故障かな？と思ったら	54
リセットについて	56
保証書とアフターサービス 仕様	57 58

はじめに

準備

テープを聞く

音場を再現する

イコライザーを調節する

サブウーファーを調節する

その他の機能と付録

本機と組み合わせるメインユニットについて

本機は、別売のメインユニットと組み合わせで使用します。
テープの操作は、本機と組み合わせたメインユニット側で行います。

組み合わせるメインユニットの種類について

本書では、メインユニットとして「DEH-P505」との組み合わせの例でテープの操作説明を行っています。

組み合わせるメインユニットの種類によっては、操作方法が一部異なります。下記をご覧ください、該当するページをご参照ください。

① 本機をテープソースとしてコントロールするメインユニット

DEH-P505/DEH-P700/MEH-P707/MEH-P800

上記のメインユニットは、「DEH-P505」と操作方法は同じです。
メインユニット[1]([P. 8](#)ページ)を参照して操作を行ってください。

② 本機をエクスターナルユニットとしてコントロールするメインユニット

DEH-P500

上記のメインユニットは、「DEH-P505」と一部の操作方法が異なります。
メインユニット[2]([P. 8](#)ページ)を参照して操作を行ってください。

DEH-P660/DEH-P550/DEH-P99/DEX-P9/DEX-P7

上記のメインユニットは、「DEH-P505」と一部の操作方法/機能が異なります。
メインユニット[3]([P. 10](#)ページ)を参照して操作を行ってください。

メモ

「DEH-P500」など、本機をエクスターナルユニット(EXT)としてコントロールするメインユニットは、エクスターナルユニットを2台以上コントロールすることができません。本機を接続したときは、ほかのエクスターナルユニットは接続しないでください。

ほかのエクスターナルユニットには1枚型MD「MDS-P505/MDS-P700」、マルチMD「MD-P100/MD-P100Ⅱ」、ボイスコントロールディスクセレクター「CD-VC50」などがあります。

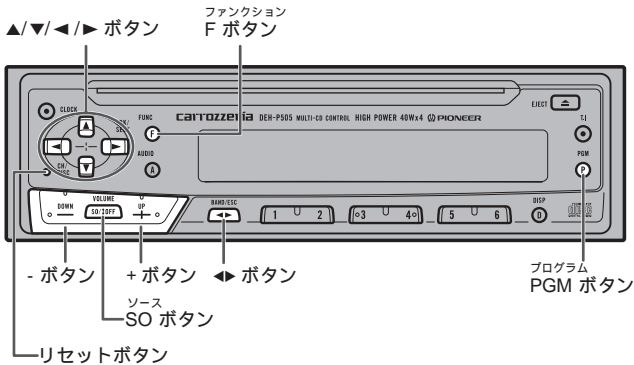
DEH-P505 / DEH-P700 / MEH-P707 / MEH-P800 との組み合わせ

操作方法は「DEH-P505」と同じです。

下記を参照して、12ページからの説明に従って操作を行ってください。

メインユニットのボタン名称

例: 「DEH-P505」

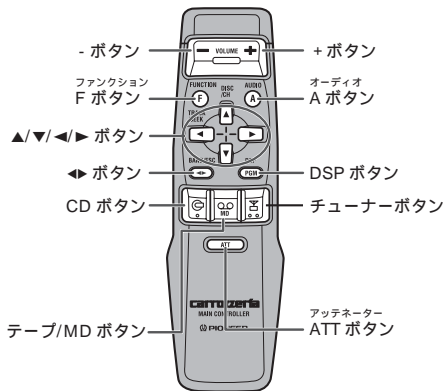


メインコントローラーのボタン名称

例: 「CD-R66」


DEH-P505は、別売のメインコントローラー「CD-R66」が使用できます。

DEH-P700 / MEH-P707 / MEH-P800にはメインコントローラーが付属しています。



メモ

「DEH-P700/MEH-P707/MEH-P800」をご使用の場合は、メインユニットのボタンの位置がDEH-P505とは一部異なります。メインユニットの取扱説明書も参考にして、同じ名称のボタンを操作してください。



「MEH-P707/MEH-P800」付属のメインコントローラーでは、MDボタン()がテープ/MDボタンになります。

本機と組み合わせるメインユニットについて(つづき)

メインユニット[2]

DEH-P500との組み合わせ

一部の操作方法が「DEH-P505」とは異なります。
次の対応表を参照して12ページからの説明に従って操作を行ってください。





機能名称	項目	DEH-P505	DEH-P500
ソース切り換え	18 操作	本体	SO
		メインコントローラー	SO MD
ディレクション チェンジ	18 操作	本体	◀▶
		メインコントローラー	◀▶
早送り/巻き戻し	20 操作	本体	◀/▶ (1回)
		メインコントローラー	◀/▶ (1回)
頭出し	20 操作	本体	◀/▶ (2回)
		メインコントローラー	◀/▶ (2回)
ファンクション モードの切り換え ²	21 操作	本体	F
		メインコントローラー	F
	動作	 リpeat ブランクスキップ ドルビー NR	 FUNC1 (ドルビー NR) FUNC2 (リpeat) FUNC3 (ブランクスキップ) FUNC4 (使用しない) ³ AUTO (使用しない) ³
リpeat再生	22 操作	モード	リpeat
		本体	▲/▼
ブランクスキップ	23 操作	モード	ブランクスキップ
		本体	▲/▼
		メインコントローラー	▲/▼

メモ

メインコントローラーで操作を行う場合は、別売のメインコントローラー「CD-R66」を使用します。

¹「DEH-P500」は、本機をエクスターナルユニット(EXT)としてコントロールします。そのため、メインコントローラーでは、ソースをテープに切り換えられません。

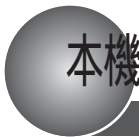
²「DEH-P500」は、ファンクションモードに切り換えると、モード表示(例「FUNC1」)が約2秒間点灯します。モード表示が消えた後は「■」表示が点滅して、ファンクションモードになっていることを知らせます。

機能名称		項目	DEH-P505	DEH-P500	
ドルビー NR	24	モード	ドルビー NR	FUNC 1	
		操作	本体	◀ / ▶	▲ / ▼
			メインコン トローラー	◀ / ▶	▲ / ▼
動作	 ドルビー NR OFF ドルビー B NR ON ドルビー C NR ON	 ドルビー NR OFF ドルビー B NR ON ドルビー C NR ON			
プログラマブル ファンクション	26	1 モード に入る	本体	F (2秒以上)	F (2秒以上)
			メインコン トローラー	F (2秒以上)	F (2秒以上)
		2 機能を 選ぶ	本体	◀ / ▶	◀ / ▶
			メインコン トローラー	◀ / ▶	◀ / ▶
		動作	 ドルビー NR ブランクスキップ リピート	 FUNC1 (ドルビー NR) FUNC2 (リピート) ▼ FUNC3 (ブランクスキップ) ▲ FUNC4 (使用しない) ⁴ A / M (使用しない) ⁴	
		3 学習 させる	本体	▲	▲
メインコン トローラー	▲		▲		
4 操作 する	本体	PGM	PGM		
	メインコン トローラー	- - -	- - -		

メモ

³ FUNC4 および AUTOモードは、テープの操作には使用しません。(このモードに切り換えて▲/▼/◀/▶ボタンを押しても、何も動作しません。)

⁴ FUNC4 および A/M は、テープの操作には使用しません。PGMボタンに学習させないでください。(学習させてPGMボタンを押しても、何も動作しません。)



本機と組み合わせるメインユニットについて(つづき)

メインユニット[3]

DEH-P660/DEH-P550/DEH-P99/DEX-P9/DEX-P7との組み合わせ

一部の操作方法、および機能が「DEH-P505」と異なります。

次の対応表を参照して12ページからの説明に従って操作を行ってください。






機能名称	項目	DEH-P505 ¹	DEH-P660 DEH-P550 ² DEX-P9	DEH-P99 DEX-P7
ソース切り換え	操作	本体 SO	SO	SO
	メインコントローラー	MD	---	---
ディレクション チェンジ	操作	本体 ◀▶	BA	---
	メインコントローラー	◀▶	◀▶	◀▶
早送り/巻き戻し	操作	本体 ◀/▶ (1回)	◀/▶ (1回)	---
	メインコントローラー	◀/▶ (1回)	◀◀/▶▶ (1回)	◀◀/▶▶ (1回)
頭出し	操作	本体 ◀/▶ (1回)	◀/▶ (2回)	---
	メインコントローラー	◀/▶ (2回)	◀◀/▶▶ (2回)	◀◀/▶▶ (2回)
ファンクション モードの切り換え	操作	本体 F	ファンクションモードの切り換えはありません。 リピート/ブランクスキップ/ ドルビー NRの切り換えは、 直接7~9キーを押して操作 します	
	動作	リPEAT ブランクスキップ ドルビー NR		
リピート再生	モード	リピート	なし	なし
	操作	本体 ▲/▼	8	8
ブランクスキップ	モード	ブランクスキップ	なし	なし
	操作	本体 ▲/▼	9	9
	メインコントローラー	▲/▼	---	---

メモ

¹メインコントローラーで操作をする場合は、別売のメインコントローラー「CD-R66」を使用します。

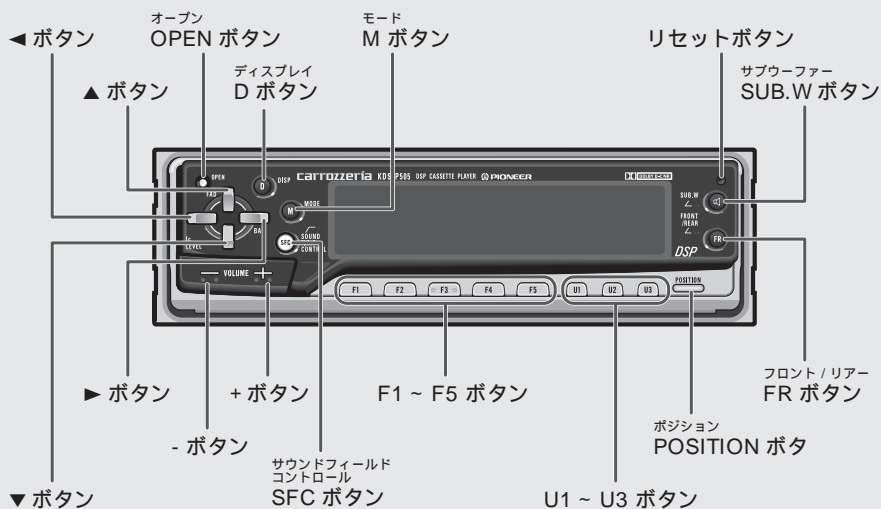
²メインコントローラーで操作をする場合は、別売のメインコントローラー「CD-R60」を使用します。

³「DEH-P660/DEH-P550/DEH-P99/DEX-P9/DEX-P7」は、本機をエクスターナルユニット (EXT) としてコントロールします。そのため、メインコントローラーでは、ソースをテープに切り換えられません。

機能名称		項目	DEH-P505 ¹	DEH-P660 DEH-P550 ² DEX-P9	DEH-P99 DEX-P7	
ドルビー NR	24	モード	ドルビー NR	なし	なし	
		操作	本体	◀/▶	7	7
			メインコン トローラー	◀/▶	---	---
動作	 ドルビー NR OFF ドルビー B NR ON ドルビー C NR ON	 ドルビー NR OFF ドルビー B NR ON ドルビー C NR ON	 ドルビー NR OFF ドルビー B NR ON ドルビー C NR ON			
プログラマブル ファンクション	26	1 モード に入る	本体 F (2秒以上) メインコン トローラー F (2秒以上)	プログラマブルファンク ション機能はありません。		
		2 機能を 選ぶ	本体 ◀/▶ メインコン トローラー ◀/▶			
		動作	 ドルビー NR ブランクスキップ リピート			
		3 学習 させる	本体 ▲ メインコン トローラー ▲			
		4 操作 する	本体 PGM メインコン トローラー ---			

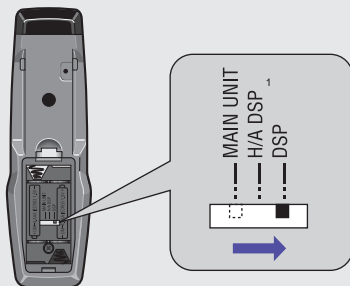
本機の各部のなまえ

本機「KDS-P505」のボタン名称



メインコントローラーについて

メインコントローラーを使用する場合は、メインコントローラーのスイッチを切り換える必要があります。



メインコントローラーのスイッチを切り換える

スイッチを“DSP”の位置に切り換える

裏ボタンを開けて、ペン先などでスイッチを切り換えてください。

スイッチを切り換えると

+ ボタン、- ボタンおよびATTボタンは本機に働き、メインユニットに対しては動かなくなります。

DSPボタンでイコライザーカーブを呼び出すことができるようになり、PGM (プログラマブル) ボタンとして動かなくなります。²

(PGMボタンに学習させた機能は、メインユニット本体のPGMボタンで操作してください。)

メモ

¹ メインコントローラによっては、“H/A DSP”のポジションが無いタイプもあります。

² DSPボタンに“BSM/DSP”と表記のあるメインコントローラーの場合、BSMボタンとして動かなくなります。(BSMの操作は、メインユニット側で行ってください。)

別売のステアリングリモートコントロールユニット「CD-SR77/CD-SR70」(以下、ステアリングリモコン)をご使用の場合にも、同様にスイッチを切り換える必要があります。ステアリングリモコンの操作のしかたや取り扱いについては、ステアリングリモコンの説明書をお読みください。

メインユニットの音量を設定する

チェック 本機を接続したメインユニットによっては、自動設定されます。



音量の調節は本機で行います

ボリューム、バランス、フェーダーなどのオーディオ機能の設定は本機で行います。まず最初に、メインユニットの音量を設定してください。

本機を接続したメインユニットが、「DEH-P505/DEH-P700/MEH-P707/MEH-P800」の場合は手順1～3の操作を行う必要はありません。

上記のメインユニットと本機を接続した場合は、メインユニットの「ボリューム、バランス、フェーダー、バス、トレブル」などのオーディオ機能は自動的に設定され、「FIE、ラウドネス、SLA」などの機能はOFFに固定されます。¹

(設定された値は固定され、メインユニット側では操作できなくなります。)

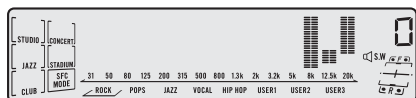
音量、音質、音場などの設定は、本機で行ってください。

メモ

¹ DEH-P700では、メインユニットのサブウーファースの設定、およびサウンドリトリバルシステムの設定もOFFに固定されず。

1 本機の音量を “ 0 ” にする

本機の - ボタンを押し続ける



3 メインユニットの音質/音場の設定を全てフラットに設定する。

メインユニットの、バランス、フェダー、バス、(ミッド)、トレブルなどの設定を全てセンター(±0)にする。

ラウドネス、(FIE)などの設定も、OFFにする。

メインユニットの取扱説明書参照

2 メインユニットの音量を “ VOL 23 ” に設定する

メインユニットの取扱説明書参照

“ VOL 23 ” は、本機と接続したメインユニットのプリアウト出力レベルが 500 mV のときの設定値の目安です。

メインユニットのプリアウト出力レベルが 500 mV より大きいとき (ハイボルトテージプリアウトなどのとき) は、音がひずむ場合があります。この場合はひずみがなくなるまで、メインユニットの音量を小さくしてください。

メモ

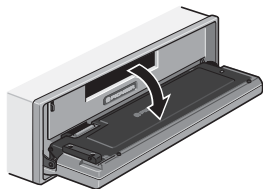
車のバッテリーをはずしたり、メインユニットのリセットボタンを押すと、メインユニットの音量は初期設定にリセットされます。もう一度、設定しなおしてください。

テープをセットする

まず最初に、本機にテープをセットしてください。

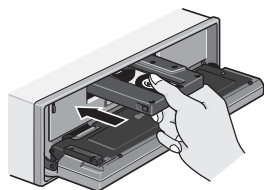
1 フロントパネルを開ける

OPENボタンを押す



2 テープをセットする

テープ面を右側にして、テープ挿入口に差し込む



テープの再生が始まります。

「DEH-P505」のディスプレイ



メタル/クロームテープの時に約4秒間表示されます。



再生時間カウンター

「DEH-P500」など、本機をエクスターナルユニット (EXT) としてコントロールするメインユニット (P.6ページ) をお使いの場合は、再生時間カウンターは表示されません。

メモ

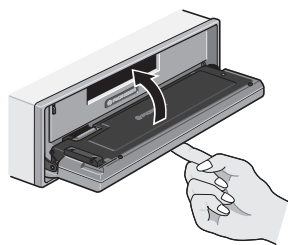
再生時間カウンターはテープを再生している時間をカウントしていますので、テープが早送り/巻き戻しされている間は、カウントが止まります。

再生時間カウンターは、次のときにリセットされ“0”に戻ります。

- * テープを入れ換えたとき。
- * 再生面が切り換わったとき。
- * テープが先頭まで巻き戻されたとき。



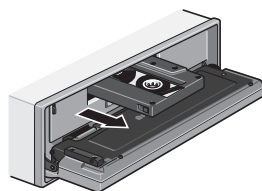
3 フロントパネルを 閉める



テープを取り出すときは

OPENボタンを押す

フロントパネルが開き、テープが出てきます。



テープを取り出し、フロントパネルを閉めてください。

メモ

テープをセットしたまま、電源をOFFにしたり、ほかのソースに切り換えることもできます。(18ページ)

テープのふだんの操作

ソースを切り換える

ここだけの操作で、テープを聞くことができます。

チェック 最初に本機にテープをセットしてください。(P.16ページ)

1 ソースを テープにする

メインユニット本体で操作するとき

SOボタンを押す

メインコントローラーで操作するとき

テープ/MDボタンを押す

ボタンを押すごとにソースが切り換わります。
テープになるまでボタンを繰り返し押してください。

DEH-P505のディスプレイ



メタル/クロームテープの時に
約4秒間表示されます。



再生時間カウンター

2 再生する面を 選ぶ

◀ボタンを押す

ボタンを押すごとに、再生する面が切り換わります。

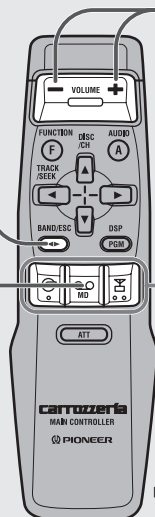
DEH-P505のディスプレイ



||||| ♪ — ||||| ♪
(上にした面を再生) (下にした面を再生)

「DEH-P500」など、本機をエクスターナルユニット (EXT) としてコントロールするメインユニット (P.6ページ) をお使いの場合は、次のようになります。

メインコントローラーのテープ/MDボタンを押しても、ソースを切り換えることはできません。メインユニット本体のSOURCEボタンで切り換えてください。再生時間カウンターは表示されません。



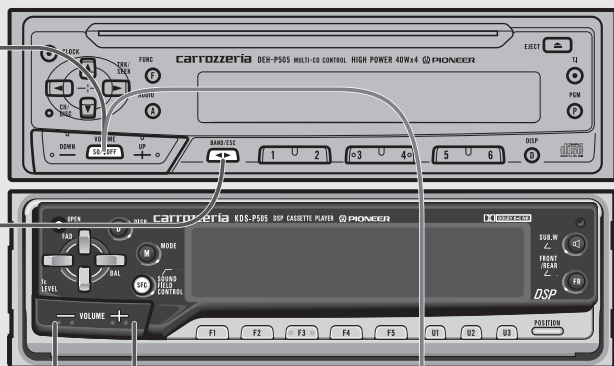
メイン
コントローラー
「CD-R66」

再生する面を選ぶ

音量を調節する

ソース切り換え / ディレクションチェンジ / 音量調節

ここだけ読めば
すぐ使えます



メインユニット
「DEH-P505」

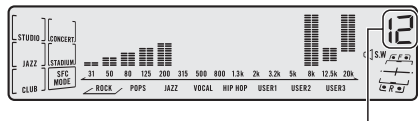
本機
「KDS-P505」

3 音量を調節する

本機の + / - ボタンまたはメインコントローラーの + / - ボタンを押す

- + : 大きくするとき
- : 小さくするとき

本機のディスプレイ



0 ~ 30 の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。

テープ再生をやめるときは

メインユニット本体で操作するとき
SOボタンを押す

ほかのソースに切り換えてください。

または、SOボタンを1秒以上押す

電源がOFFになります。

メインコントローラーで操作するとき
CD、テープ/MDまたはチューナーボタンを押す

ほかのソースに切り換えるか、電源をOFFにしてください。

テープを聞く

メモ

AVシステムTV「AVX-P50/AVX-P60/AVX-P60II/AVX-P600」付属のリモコン、およびDVDカーコンピューター「AVIC-D909/AVIC-D707/AVIC-D700」付属のリモコンでは、本機の音量の調節はできません。音量の調節は、本機またはメインコントローラーで行ってください。

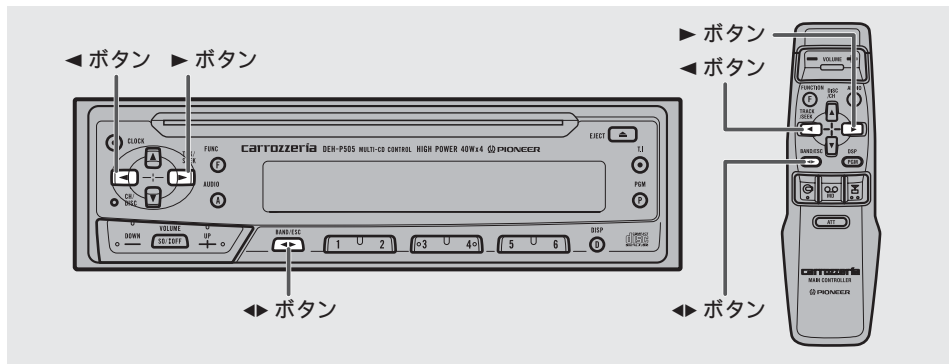
メモ

「DEH-P505/DEH-P700/MEH-P707/MEH-P800」以外のメインユニットをお使いの場合は、「本機と組み合わせるメインユニットについて」(P.6ページ)をご覧ください。該当するページを参照して操作を行ってください。

早送り/巻き戻しや頭出しをする

早送り/巻き戻し / 頭出し

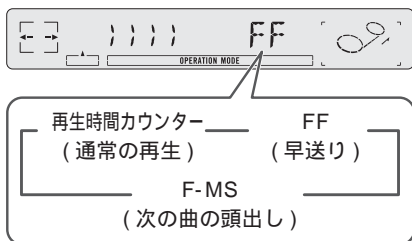
早送り/巻き戻しをして、曲の聞きたいところから再生を始めることができます。
また、次の曲の頭出しや、今聞いている曲の頭出しも簡単にできます。



早送りや次の曲の頭出しをする

▶ ボタンを押す

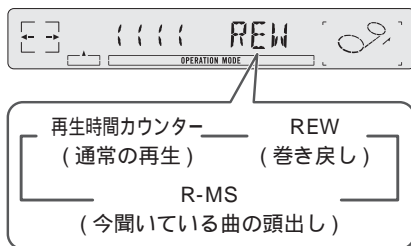
ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。



巻き戻しや今聞いている曲の頭出しをする

◀ ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

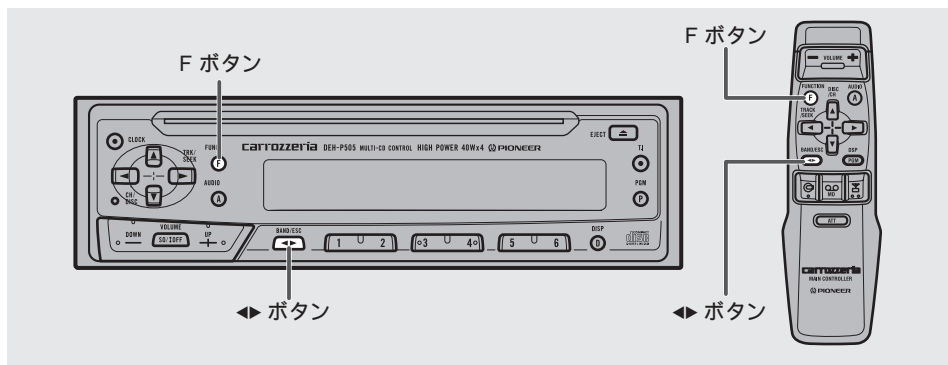


メモ

早送り/巻き戻しや頭出しは、◀▶ボタンを押しても途中で解除されます。

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。



ファンクションモードの切り換え

ファンクションモードを切り換える

Fボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

リピートモード (☞ 22ページ)

ブランクスキップモード (☞ 23ページ)

ドルビー NRモード (☞ 24ページ)

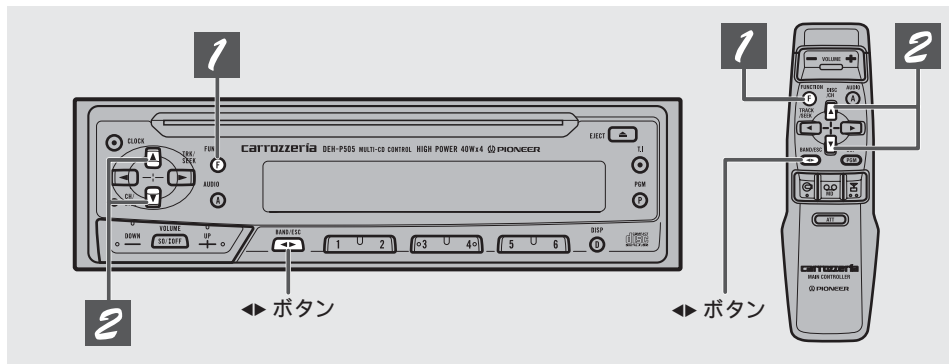
ファンクションモードを解除するには、◀ボタンを押します。

(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

同じ曲を繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞きことができます。



1 リピートモードにする

(☞ 21ページ)



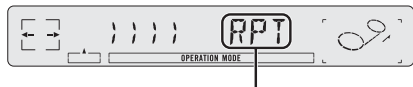
2 リピート再生を ONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)



今聞いている曲を繰り返し再生します。

◀ ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。



リピート再生中に表示されます。

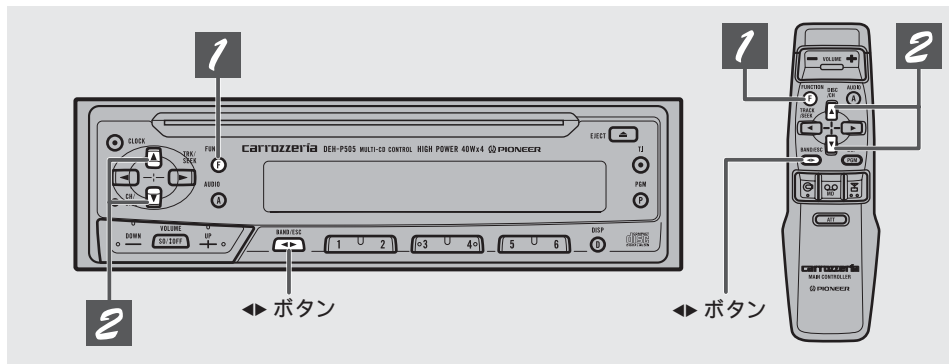
メモ

リピート再生は、オペレーションモード (ファンクション、詳細設定、初期設定、オーディオ調節モード) 以外のときに◀ボタンを押しても、OFFになります。

長い無音部分を自動的に早送りする

ブランクスキップ

テープ再生中に12秒以上の無音部分(あき)があった場合、自動的に次の曲の始めまで早送りさせることができます。



1 ブランクスキップモードにする (21ページ)



2 ブランクスキップをONにする

▲ ボタンを押す (▼ ボタンでOFF)

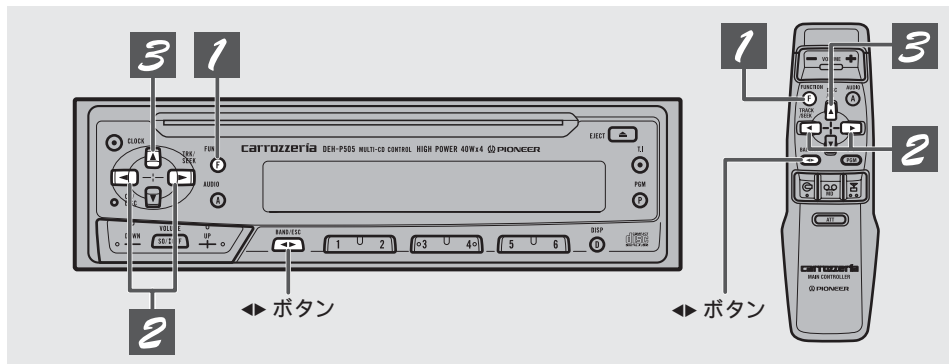


◀ ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

テープを聞く

ドルビー NR

ドルビー B NR ONで録音したテープを聞くときは、本機もドルビー B NR ONに、ドルビー C NR ONで録音したテープを聞くときは、本機もドルビー C NR ONにしてください。



1 ドルビー NRモードにする (☞ 21ページ)



2 ドルビー NRを切り換える

◀ または ▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。



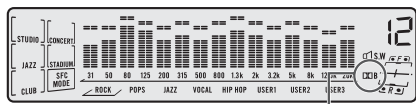
NR OFF
(ドルビー NR OFF)
|
B NR ON
(ドルビー B NR ON)
|
C NR ON
(ドルビー C NR ON)



1

◀ ボタンを押して、ファンクションモードを解除してください。

本機のディスプレイ



ドルビー B NR ON のときは“**DOB**”が点灯し、ドルビー C NR ON のときは“**DOC**”が点灯します。

メモ

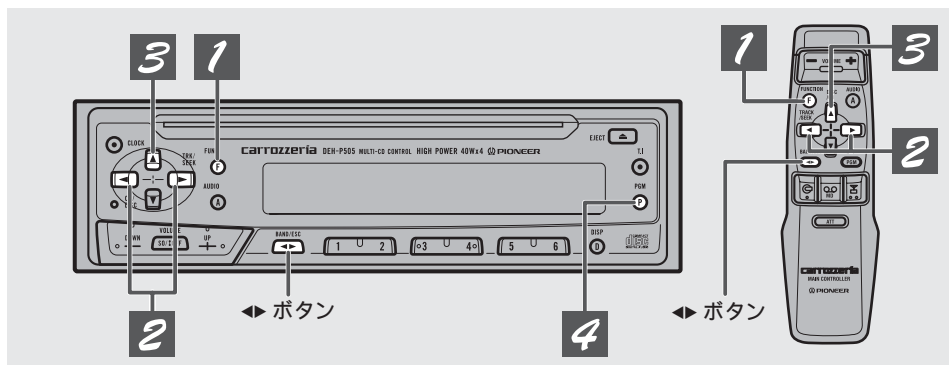
ドルビー NRシステムは、テープ再生中に生じる“サー”という雑音（ヒスノイズ）を減らすシステムです。

ドルビー ノイズリダクションはドルビー ラボラトリーズ ライセンシング コーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBYおよびダブルD記号はドルビー ラボラトリーズ ライセンシング コーポレーションの登録商標です。

本機がデモンストレーション表示 (48 ページ) になっているときは、本機の“**DOB**”および“**DOC**”は点灯しません。

よく使う機能を学習させる

よく使う機能をメインユニット本体のPGMボタンに学習させることができます。学習させた機能は、ファンクションモードに切り換えなくても操作できるようになります。



1 プログラブルファンクション設定モードにする

Fボタンを2秒以上押す



約2秒間表示されます。

2 学習させたい機能を選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。



NR	B-SKIP
(ドルビー NR)	(ブランクスキップ)
REPEAT	
(リピート)	

メモ

「PGM-FUNC」が約2秒間表示した後、現在PGMボタンに学習されている機能が表示が切り換わります。初期設定では、NR(ドルビーNR)が学習してあります。

3 選んだ機能を学習させる

▲ボタンを押す



点滅が止まり、学習されたことを知らせます。

◀ボタンを押して、プログラマブルファンクション設定モードを解除してください。

4 学習させた機能を実操作する

メインユニット本体のPGMボタンを押す

ボタンを押すごとに、記憶させた機能のON/OFFが切り換わります。

ドルビー NR機能の場合は、ボタンを押すごとにドルビー NR OFF、ドルビー B NR ON、ドルビー C NR ONの順に切り換わります。

メモ

メインコントローラーのPGMボタンは、本機と組み合わせるとDSPボタンになり、PGMボタンとして働かなくなります。

(13ページ)

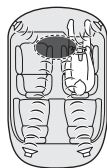
音場の中心で聞く

音像定位を明確にする

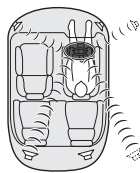
より自然な状態で音楽を聞くための条件のひとつに

“ 音像定位を明確にする
(音場の中心で聞く) ”

ことがあげられます。ポジションセクター機能は、座席位置や乗車人数に合わせて、各スピーカーから出る音の遅延時間とレベルを調整し、ワンタッチでその設定を呼び出す機能です。これにより、どの座席位置でも自然な音響特性が得られます。



乗車位置に対して前後左右のスピーカーまでの距離が異なり、それぞれのスピーカーから出た音が耳に届くまでの時間が異なって、音像がはっきりしない。



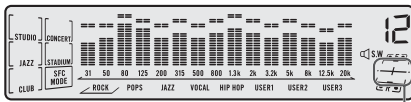
ポジションセクター機能により、前後左右のスピーカーから出る音の遅延時間とレベルを調整し、音像が明確になる。



リスニングポジションを設定する

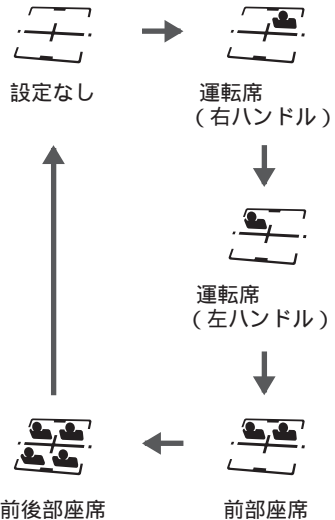
POSITION ボタンを押す

座席位置、乗車人数に合わせて、リスニングポジションを設定します。



ポジションを表示します。

ボタンを押すごとに右のように切り換わります。



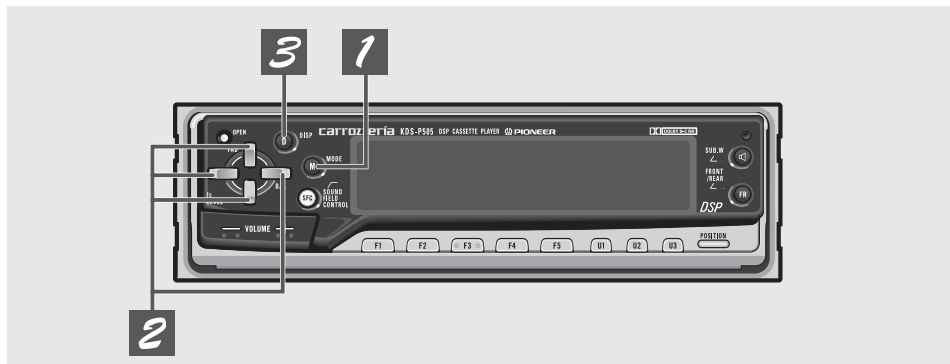
音場を再現する

メモ

リスニングポジションを設定したあとで、さらに前後左右の音量バランスを調節することができます。(30ページ)

前後左右の音量バランスを調節する

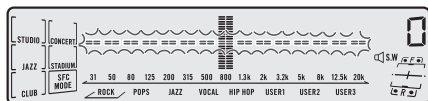
設定したリスニングポジションに対して、音楽がより自然に聞こえるように前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。



1 フェーダー/バランスモードに切り換える

Mボタンを押す

フェーダー/バランスモード



ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

フェーダー/バランスモード

ニュアンスコントロールモード
(40 ページ)

グラフィックイコライザーモード
(42 ページ)

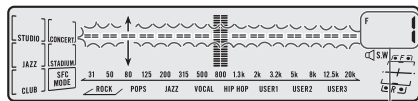
2 音量バランスを調節する

前後を調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : 前にするとき

▼ : 後にするとき



前後のバランスは F 25 ~ R 25 の範囲で調節できます。

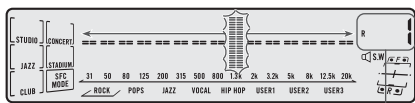
2スピーカーシステムをお使いの方は前後の音量バランス (フェーダー) をセクター“0”にセットしてください。

左右を調節する

◀ または ▶ ボタンを押す

◀ : 左にするとき

▶ : 右にするとき

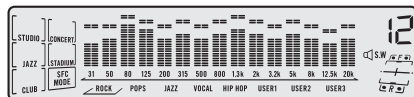


左右のバランスは L 25 ~ R 25 の範囲で調節できます。

3 スペアナ表示に戻る

Dボタンを押す

スペアナ表示 (例: ピークバウンド)



メモ

フェーダー/バランスは、それぞれのポジションに対して別々に設定できます。






調節を行った状態が、そのポジションの設定値として記憶されます。次にそのポジションを呼び出したときは、調節後の設定値が呼び出されます。

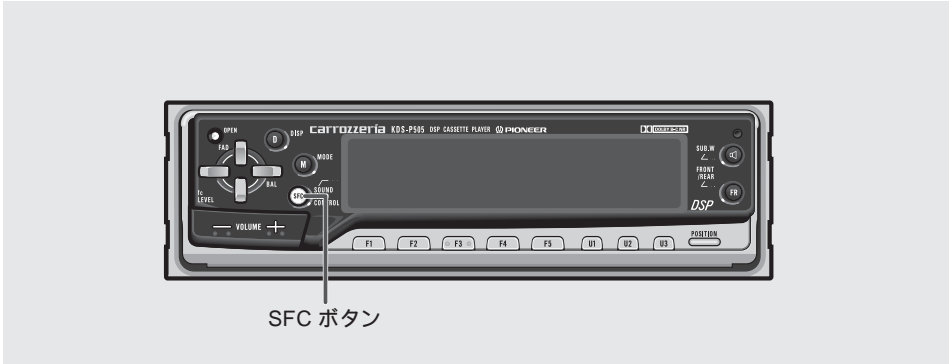
フェーダー/バランスモードに切り換えたあとで、約25秒間何も操作をしないとスペアナ表示に戻ります。

音場を再現する

記憶されている音場プログラム

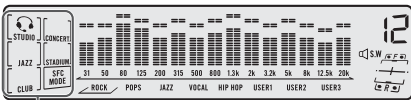
サウンドフィールドコントロール (SFC) 機能には、スタジオ、ジャズ、クラブ、コンサート、スタジアムの5つの代表的な音場空間を再現するプログラムが設定されています。この機能を使用すれば、あたかもその会場にいるかのようなリアルな音場空間を車室内に再現することができます。

音場プログラム	ディスプレイ	音場の概要
スタジオ		音像を正面に定位し、残響音は付加しません。比較的狭いミキシングルーム壁面からの初期反射音进行处理することで基本的な音場を再現しています。
ジャズ		50人～100人程度のジャズクラブで音楽を楽しめる空間をイメージしています。ライブ録音のソースなどに効果を発揮します。壁面からの反射音と残響音をリアルに再現しています。
クラブ		200人～300人程度入れるクラブをイメージしています。残響音が吸収され易い音場を再現し、ビートの効いた音楽を楽しむのに最適です。
コンサート		1,000人～2,000人規模のクラシック音楽専用ホールを再現しています。反射音と残響音により、音の広がりとお行き感を楽しむことができます。
スタジアム		野外スタジアムでのライブ演奏をイメージしています。遠くの壁面からの反射音によりエコー音が生じます。その効果でスタジアムの広さを感じられる音場を再現しています。



音場プログラムを呼び出す

SFCボタンを押す



呼び出した音場プログラムの絵が点灯します。

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

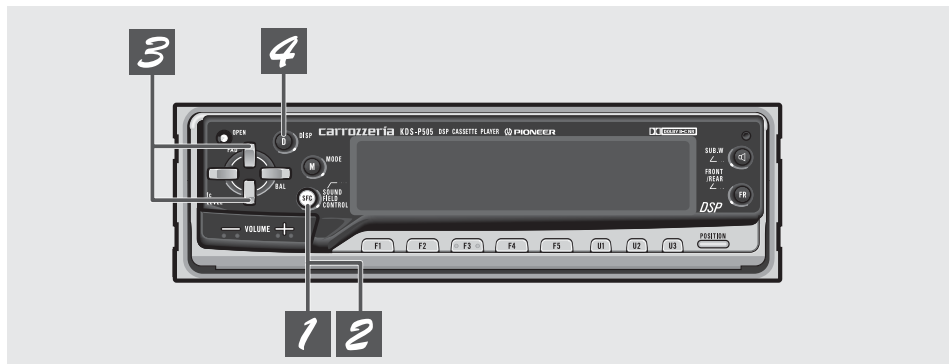


メモ

音場プログラムを呼び出したあとで、音場空間内での自分の位置の前後を調節することができます。
 (SFCフェーダー (P.34)参照)

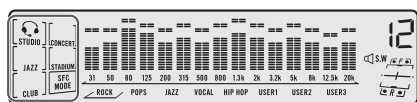
音場空間内での自分の位置を調節する

音場空間内での自分の位置 (リスニングポジション) の前後を調節することができます。



1 調節したい音場プログラムを呼び出す

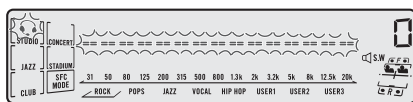
SFCボタンを押す (☞ 32ページ)



呼び出した音場プログラムの絵が点灯します。

2 SFCフェーダーモードに切り換える

SFCボタンを2秒以上押す

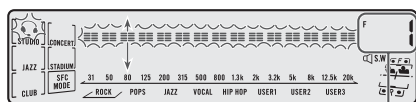


3 音場空間内での自分の位置を調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : 空間内の前の方にいるような感じ

▼ : 空間内の後の方にいるような感じ

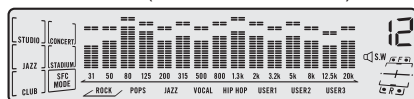


F 12 ~ R 12 の範囲で調節できます。

4 スペアナ表示に戻る

Dボタンを押す

スペアナ表示 (例: ピークバウンド)



メモ

SFCフェーダーは、それぞれの音場プログラムに対して別々に調節できます。

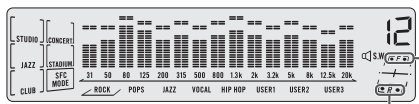
調節を行った状態が、その音場プログラムの設定値として記憶されます。次にその音場プログラムを呼び出したときは、調節後の設定値が呼び出されます。

SFCフェーダーモードに切り換えたあとで、約25秒間何も操作をしないとスペアナ表示に戻ります。

イコライザーカーブの呼び出し

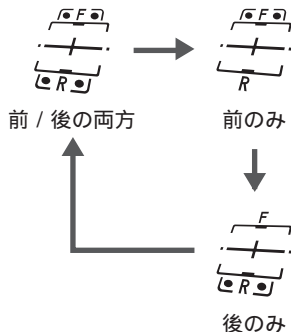
1 イコライザーをかける スピーカーを選択する

FR ボタンを押す



選択したスピーカーを表示します。

ボタンを押すごとに右のように切り換わります。

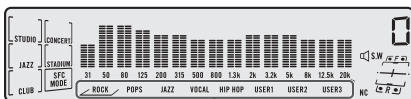


2 イコライザーカーブを 呼び出す

F1 ~ F5 ボタンまたは U1 ~ U3 ボタンの1つを押す

F1 ~ F5 : あらかじめ記憶されているカーブ (ファクトリーカーブ) を呼び出すとき

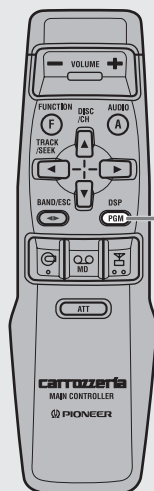
U1 ~ U3 : 自分で記憶させたカーブ (ユーザーズカーブ) を呼び出すとき



選択したイコライザーカーブの枠が点灯します。

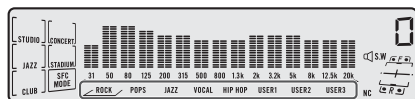
メモ

U1 ~ U3ボタン (ユーザーズカーブ) には初期設定でフラット (効果なし) が記憶されています。(ユーザーズカーブの記憶のさせかたは 44ページ)





イコライザーカーブをメインコントローラーで呼び出すには
DSP ボタンを押す



選択したイコライザーカーブの枠が点灯します。

ファクトリーカーブ (5 種類)
あらかじめ記憶されている
イコライザーカーブ

ボタンを 2 秒以上押し
ごとに切り換わります。

ユーザーズカーブ (3 種類)
自分で記憶させた
イコライザーカーブ

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



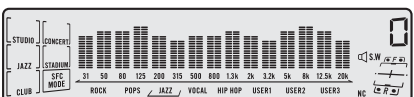
ROCK ▶ POPS ▶ JAZZ ▶ VOCAL ▶ HIP HOP
 ロック ポップス ジャズ ボーカル ヒップホップ

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

USER1 ▶ USER2 ▶ USER3
 ユーザー 1 ユーザー 2 ユーザー 3

記憶されているイコライザーカーブ

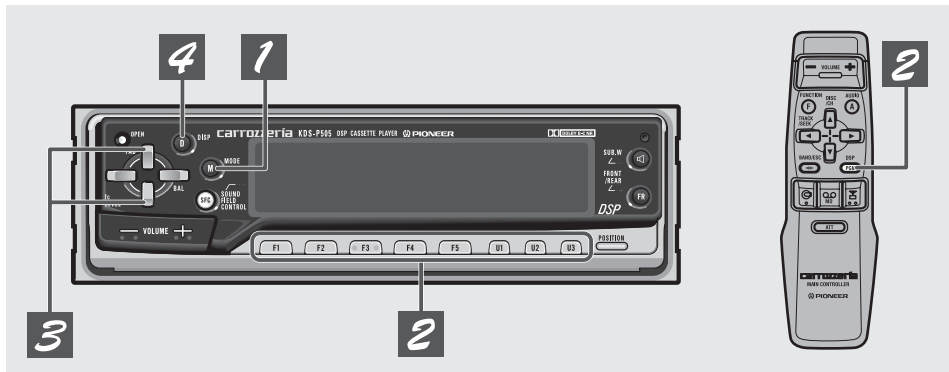
本機には、ロック、ポップス、ジャズ、ボーカル、ヒップホップの5つのイコライザーカーブ（ファクトリーカーブ）があらかじめ記憶されています。

カーブ名	説明	表示
ROCK/ ロック (F1 ボタン)	ロックミュージックのリズムセクション帯域を中心に、低・高音域の不足感が補正された迫力のある音になるように設定されています。	
POPS/ ポップス (F2 ボタン)	特に中音域を強調し、軽快なポップスサウンドが楽しめるように設定されています。	
JAZZ/ ジャズ (F3 ボタン)	ロックに比べ、より低音・高音側を強調して、広帯域感が得られるように設定されています。ジャズを楽しむのに適しています。	

カーブ名	説明	表示
VOCAL/ ボーカル (F4 ボタン)	音声帯域部分を強調し、さらに明瞭度を上げるように低音域を抑えてあります。ボーカルを強調したりアナウンスを聴く場合にお使いください。	
HIP HOP/ ヒップホップ (F5 ボタン)	低音と中・高音を強調し、HIP HOP のメリハリのあるリズム感が楽しめます。重低音をきかせたいときに最適です。	

イコライザーカーブを全体的に補正

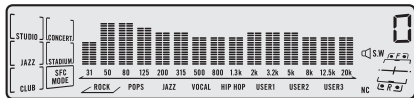
F1～F5ボタン・U1～U3ボタンに記憶されたイコライザーカーブの効果を、お好みに合わせて全体的に強めたり弱めたりすることができます。



1 ニュアンスコントロールモードにする

Mボタンを押す

ニュアンスコントロールモード



ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

フェーダー / バランスモード
(☞ 30 ページ)

ニュアンスコントロールモード

グラフィックイコライザーモード
(☞ 42 ページ)

2 補正したいイコライザーカーブを呼び出す

F1～F5ボタン・U1～U3ボタンの1つ、またはDSPボタンを押す

(☞ 36ページ)

イコライザーカーブを記憶させていないユーザーズカーブ (=フラット) は、補正が行えません。

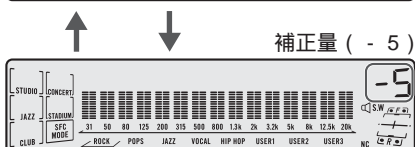
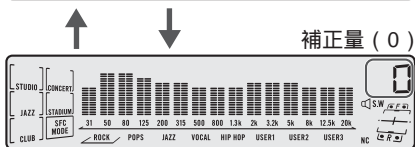
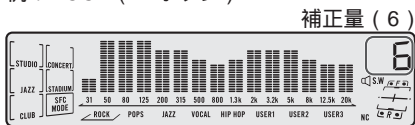
3 イコライザーカーブを 全体的に補正する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : カーブの効果を強めるとき

▼ : カーブの効果を弱めるとき

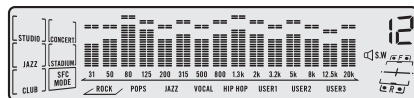
例 : ROCK (F1 ボタン)



4 スペアナ表示に 戻る

Dボタンを押す

スペアナ表示 (例 : ピークバウンド)



メモ

補正量は最大で - 6 ~ 6 の範囲で補正できますが、呼び出したイコライザーカーブによっては、その範囲が狭くなることがあります。

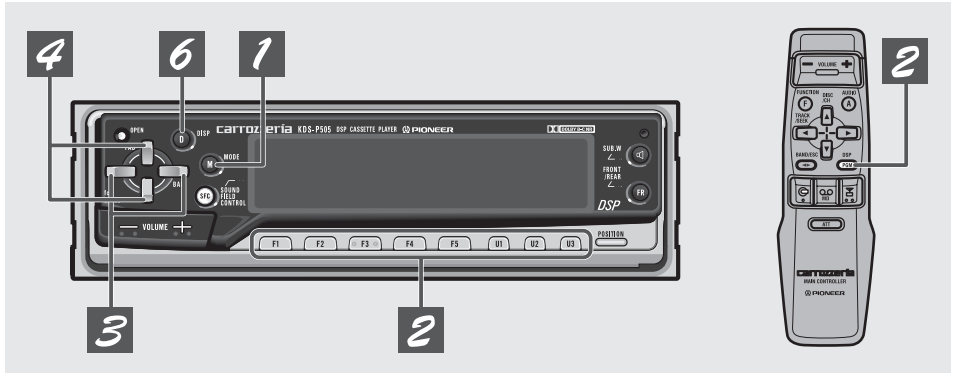
それぞれのイコライザーカーブに対して別々に補正することができます。

補正した値は設定値として記憶され、次にそのイコライザーカーブを呼び出したときには補正後のイコライザーカーブが呼び出されます。

ニュアンスコントロールモードに切り換えたあとで、約25秒間何も操作をしないとスペアナ表示に戻ります。

イコライザーカーブを細かく調節す

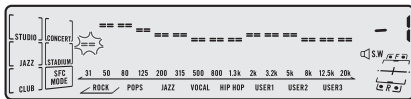
15の周波数帯域のレベル調節を行うことができます。



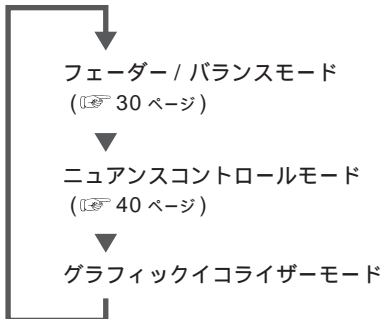
1 グラフィックイコライザーモードにする

Mボタンを押す

グラフィックイコライザーモード



ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



2 調節したいイコライザーカーブを呼び出す

F1 ~ F5ボタン・U1 ~ U3ボタンの1つ、またはDSPボタンを押す

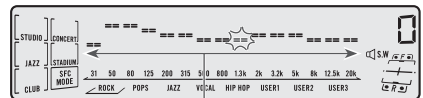
(36ページ)

3 調節したい周波数を選ぶ

◀ または ▶ ボタンを押す

▶ : 高い周波数を選ぶとき

◀ : 低い周波数を選ぶとき



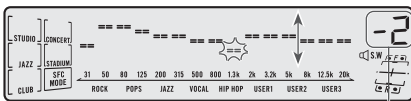
周波数は 31 Hz ~ 20 kHz の中から選べます。

4 レベルを調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : レベルを強めるとき

▼ : レベルを弱めるとき

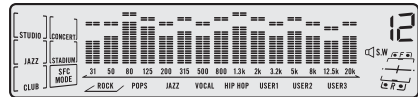


レベルは - 6 ~ 6 まで調節できます。

6 スペアナ表示に戻る

D ボタンを押す

スペアナ表示 (例 : ピークバウンド)



5 調節したイコライザーカーブを記憶させる

調節したイコライザーカーブは、他のイコライザーカーブを呼び出すとクリアされてしまいます。調節したカーブを残しておきたいときは記憶させてください。(P.44ページ)

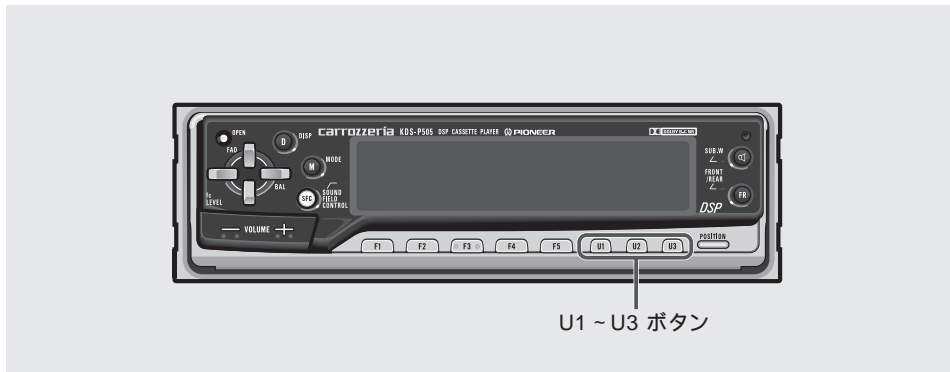
メモ

グラフィックイコライザーモードに切り換えたあとで、約25秒間何も操作をしないとスペアナ表示に戻ります。

イコライザーカーブを記憶させる

ユーザーズカーブの記憶

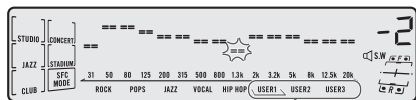
自分で調節したイコライザーカーブをU1～U3のボタンに記憶させることができます。



U1～U3 ボタン

イコライザーカーブを 記憶させる

U1～U3ボタンの1つを2秒以上押す



USER1 USER2 USER3

記憶動作中に枠が点滅し、記憶が終了すると点灯に変わります。

メモ

イコライザーカーブがすでに記憶されている場合は、前の記憶が消されて新しいイコライザーカーブが記憶されます。

イコライザーカーブを記憶させると、そのイコライザーカーブのニュアンスコントロールの補正值は“0”になります。

イコライザーカーブの効果を確認する

強制フラット

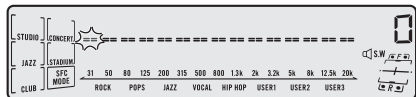
ワンタッチでイコライザーカーブのレベルをすべて“0”(フラット)にすることができます。



F1 ~ F5 ボタン

イコライザーカーブの レベルをすべて0にする

F1 ~ F5ボタンの1つを2秒以上押す
グラフィックイコライザーモードに切り換わり、
レベルがすべて“0”になります。



イコライザーを調節する

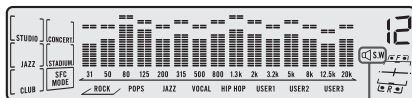
サブウーファーの調節

サブウーファー出力

サブウーファーを接続したときに、サブウーファーの出力をON/OFFしたり、出力レベルを調節することができます。

1 サブウーファー出力をONにする

SUB.W ボタンを押す



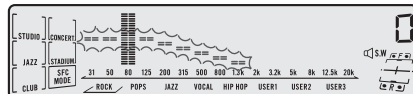
サブウーファー出力がONのときに点灯します。

ボタンを押すごとに ON/OFF します。

2 サブウーファーモードに切り換える

SUB.W ボタンを2秒以上押す

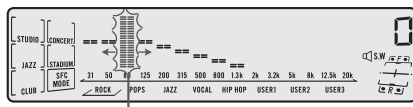
サブウーファーモード



3 カットオフ周波数を選ぶ

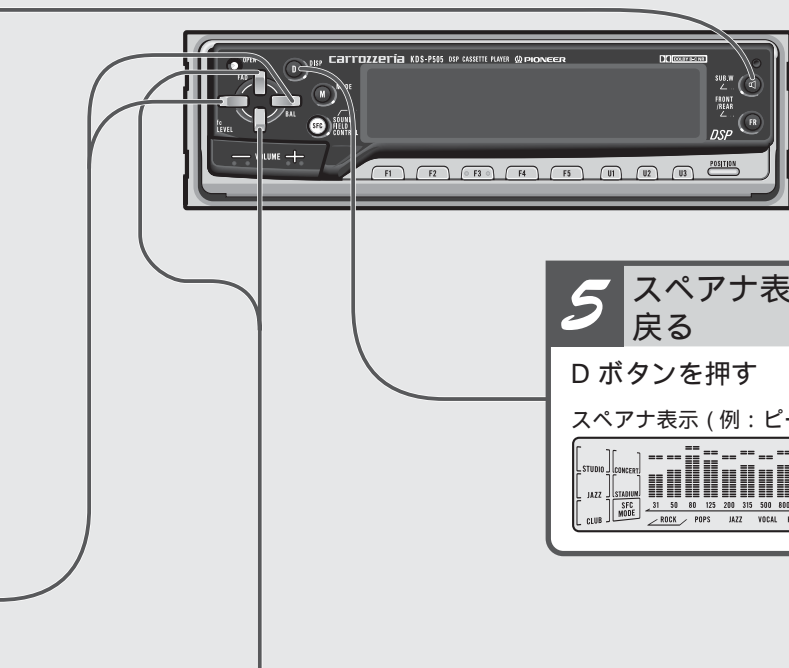
◀ または ▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数を選ぶとき
- ◀ : 低い周波数を選ぶとき



周波数は 50 Hz、80 Hz、125 Hz の3つの中から選べます。

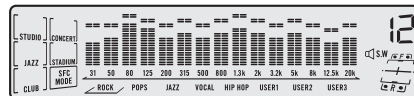
をONにする サブウーファーを調節する



5 スペアナ表示に戻る

D ボタンを押す

スペアナ表示 (例: ピークバウンド)

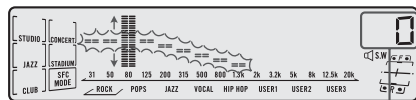


4 出力レベルを調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : レベルを強めるとき

▼ : レベルを弱めるとき



レベルは - 6 ~ 6 まで調節できます。

メモ

初期設定はサブウーファー出力ONに設定されています。

サブウーファーモードに切り換えたあとで、約25秒間何も操作をしないとスペアナ表示に戻ります。

表示を切り換える

本機の表示には7種類の表示があり、それぞれの表示は簡単に切り換えることができます。



表示を切り換える

Dボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように表示が切り換わります。

- ▼
- ピークバウンド表示
- ▼
- ピークレベル表示
- ▼
- シンプルレベル表示
- ▼
- シンメトリック表示
- ▼
- ラディエーション表示
- ▼
- サブウーファー表示
(サブウーファーがON のとき)
- ▼
- グラフィックイコライザー表示

メモ

本機の電源がON状態のとき、カセットテープの無音部分のように、本機にオーディオ信号の入力がない状態が約30秒続くと、ディスプレイがデモンストレーション表示に切り換わります。

デモンストレーション表示



本機を操作したり、もう一度音楽などがはじまると、デモンストレーション表示が解除され、前の表示に戻ります。

表示の詳細

表示名	説明	表示
ピークバウンド	各周波数の音の強さを高 さで表し、最高値を一時的 に保持します。	
ピークレベル	各周波数のピークレベル を表示します。	
シンプルレベル	125 Hzの音の強さを全 体に表示します。	
シンメトリック	各周波数の音の強さを幅 で表示します。	
ラディエーション	音の強さを放射線状に表 示します。	
サブウーファー	サブウーファーから出る 音をイメージ表示します。 音の強さにより、速さが 変化します。	
グラフィック イコライザー	現在設定されているイコ ライザーカーブを表示し ます。	

瞬時に音量を小さくする

アッテネーター

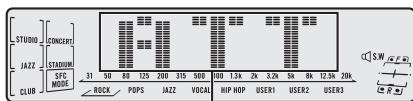
車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。



瞬時に音量を 小さくする

ATTボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



アッテネーターがONのときに表示されます。

アッテネーターがONのときは、音量が約1/10になります。

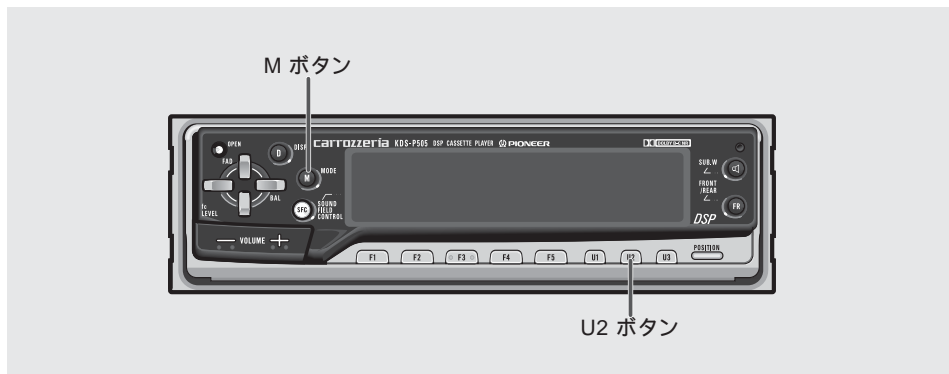
メモ

アッテネーターがONのときに+または-ボタンを押すと、アッテネーターは自動的にOFF(解除)になります。このときは、アッテネーターがONのときの音量に近い音量になります。

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマーの設定

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにするとディマーが働き、ディスプレイが暗くなります。このディマーの設定は、OFFにすることができます。



1 電源をOFFにする

メインユニットのSOボタンを1秒以上押す (☞ 18ページ)

2 ディマーの設定をOFFにする

本機のMボタンとU2ボタンを同時に押しながら、メインユニットのSOボタンを押して電源を入れる

操作を行うごとにディマーの設定がON/OFFします。

メモ

初期設定はディマーON (車のライトをONにするとディスプレイが暗くなる) に設定されています。

エクスターナル接続時のテープの機能について

本機をエクスターナルユニットとしてコントロールするメインユニット(6ページ)と接続した場合は、テープ動作の各機能は、次のようになります。

サウンドスケープ

テープを再生中は、ミュージック (曲中) モードおよびブランク (曲間) モードのサウンドスケープ再生を行うことができます。プログラム (1 by 1) モードには切り換わりません。

ソースごとに設定できるトーン (バス/ミッド/トレブル)

テープ (エクスターナルユニット) はAUX (外部機器) と同じ設定になります。

ソースレベルアジャスター (SLA)

テープ (エクスターナルユニット) は1つのソースとして単独に設定することができます。

ソース名表示

テープの動作中は、"EXT"などと表示されます。

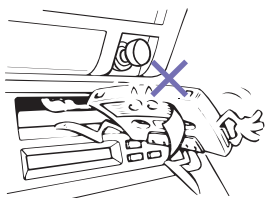
メモ

上記の機能のうち、いずれかの機能が搭載されていないメインユニットもあります。
(詳しくは 6メインユニットの取扱説明書)

テープの正しい使いかた

ご使用になるテープについて

ラベルがはがれかけたテープは使用しないでください。ラベルが引っかかり、テープが取り出せなくなります。このようなテープは、ラベルをはがしてからお使いください。



C-120 (120分用) のテープは使用しないでください。テープが非常に薄いため、テープが回転部分に巻き付いたり、切れたりすることがあります。

保管上のご注意

テープは、直射日光が当たるところや高温になるところには、保管しないでください。



テープは、スピーカーの近くや磁石の近くなど、磁気のあるところには、保管しないでください。

テープがゆるまないように、必ずカセットケースに入れて保管してください。

ヘッドのお手入れについて

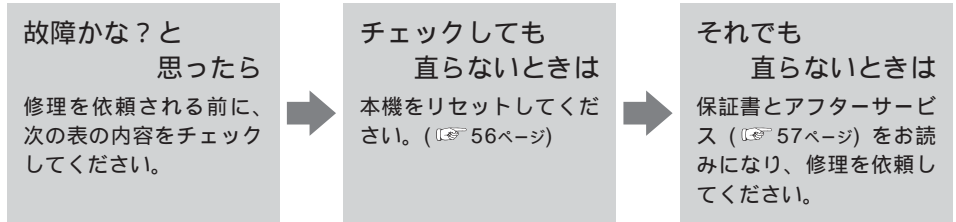
テープのヘッドは、月に1~2回程度クリーニングしてください。ヘッドの汚れがひどくなると、音が悪くなったり、音とびを起こしたりします。定期的にクリーニングするように心がけてください。

当社では、クリーニングカセット「ST-650」を別売しています。テープ再生と同じようにセットするだけで、ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーなど、テープデッキ内部の汚れを一度に清掃してくれます。カーステレオ販売店でお買い求めください。



市販のクリーニングテープをお使いになるときは、説明書や注意書きを十分お読みください。また、一度の清掃につき片面1回だけ走行させてください。何度もテープ走行させると、ヘッドの磨耗を早めますのでご注意ください。

故障かな？と思ったら



共通項目

症 状	原 因	処 置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが 正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、 もう一度確認してください。 (☞ 取付説明書)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下けている。	音量を上げてください。(☞ 18ページ)
	アッテネーターがONに なっている。	アッテネーターを解除してください。 (☞ 50ページ)
	フェーダーの調節を誤って いる。	正しく調節してください。 (☞ 30ページ)
	メインユニットの音量を下 げている。 ¹	メインユニットの音量を上げてください。 (☞ 14ページ)
音が歪む。	メインユニットのフェー ダーの調節が、センター に合っていない。 ¹	メインユニットのフェーダーをセンター に調節してください。 (☞ 14ページ)
	メインユニットの音量を上 げすぎている。 ¹	メインユニットの音量を下げてください。 (☞ 14ページ)
フロントまたはリアース ピーカーの音が出ない。	フェーダーの調節を誤って いる。	正しく調節してください。 (☞ 30ページ)

メモ

¹ 「DEH-P505/DEH-P700/MEH-P707/
MEH-P800」をお使いの場合、この原因は
当てはまりません。

テープ

症 状	原 因	処 置
テープ再生の途中で、再生面が自動的に切り換わる。	テープがからみついている。	カセットテープを交換してください。
テープ再生の音質が悪い。	テープの巻きかたが乱れている。	早送りや巻き戻しをして、テープを均一に巻き直してください。(☞ 20ページ)
	テープの録音状態が良くない。	ほかのテープと交換してください。良くなればテープの不良です。
	ドルビー NRが正しく働いていない。	録音したときのドルビー NRと、本機のドルビー NRのON/OFFを合わせてください。(☞ 24ページ)
	テープヘッドが汚れている。	テープヘッドの汚れを清掃してください。
頭出しが正しく働かない。リピート再生が正しく働かない。	曲と曲の間の“あき”が4秒以上ない。	“あき”が4秒以上のテープを使用してください。
	会話のように、音の途切れている部分が4秒以上続いている。	このような録音内容のテープでは、“あき”があると判断してしまうため、頭出しやリピート再生が正しく働かないことがあります。
	曲の途中で、非常に小さな音が4秒以上続いている。	

リセットについて

リセットボタンについて

リセットボタンは、本機のマイコンをリセットするボタンです。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

接続が終わった後。

本機が正しく動作しないとき。

ディスプレイが正しく表示されないとき。

なお、リセットボタンを押すと、本機は初期状態に戻ります。本機の記憶（ユーザーズカーブやSFCフェーダーなど）が消去されますので、もう一度セットし直してください。

リセットボタンの押しかた

ボールペンの先などで、リセットボタンを押します。



リセットボタン

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることを確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアお客様相談センターまたは最寄りのパイオニアインフォメーションセンター (I・C) をご利用ください。所在地、電話番号はメインユニットに付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

仕様

テープデッキ部

使用テープ

バック：コンパクトカセット
(C-30 ~ C-90)

テープ速度：4.8 cm/sec.

早送り/

巻き戻し時間：約100秒 (C-60)

回転ムラ：0.09 % (WRMS)

再生周波数特性：25 ~ 19,000 Hz (±3 dB)

ステレオ

セパレーション：50 dB

S/N：メタルテープ：

DOLBY C NR IN
73 dB (IHF-A ネットワーク)

DOLBY B NR IN
67 dB (IHF-A ネットワーク)

DOLBY NR OUT
61 dB (IHF-A ネットワーク)

イコライザー部

イコライザー周波数

(15バンドグラフィックイコライザー)：

31 Hz、50 Hz、80 Hz、125 Hz、
200 Hz、315 Hz、500 Hz、
800 Hz、1.3 kHz、2 kHz、
3.2 kHz、5 kHz、8 kHz、
12.5 kHz、20 kHz

調整幅：±12 dB

高調波歪率：0.01 %

(1 kHz、500 mV、20 kHz L.P.F.)

周波数特性：20 ~ 20,000 Hz (0、-3 dB)

S/N：91 dB (IHF-A ネットワーク)

入力レベル/

インピーダンス：500 mV / 22 k

出力レベル/

インピーダンス：500 mV / 1 k

最大出力レベル：1.5 V / 1 kHz、1 %歪

サブウーファー：周波数：50 Hz、80 Hz、125 Hz

スロープ：-18 dB/OCT
レベル：±12 dB (2 dB)

共通部

最大消費電流：0.6 A

使用電源：DC 14.4 V
(10.8 ~ 15.1 V 使用可能)

アース方式：マイナスアース方式

寸法 (取付寸法)：178 (W) × 50 (H) × 155 (D) mm
(ノーズ寸法)：170 (W) × 46 (H) × 14 (D) mm

質量：1.3 kg (コードユニット含まず)

付属品

電源コード：1

取付ネジ類：1式

RCAオーディオ

コード (20 cm)：2

取扱説明書：1

取付説明書：1

安全上のご注意：1

保証書：1

メモ

上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。





エコマーク認定の再生紙を使用しています。

© パイオニア株式会社 1998

< 98A00F0A01 >

< CRA2492-A >

 **パイオニア株式会社**
〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

お客様ご相談窓口 (修理に関しては別添『ご相談窓口・修理窓口のご案内』参照)

お客様相談センター TEL 03-3491-8181

技術相談窓口	札幌	TEL 011-644-4779	大阪	TEL 06-353-3705
	仙台	TEL 022-375-4417	広島	TEL 082-228-2239
	名古屋	TEL 052-532-1141	福岡	TEL 092-441-8076